第75回 全国高等学校PTA連合会大会 大分大会 参加報告

期日　　令和8年8月20日、21日
会場　　別府国際コンベンションセンター　ビーコンプラザ(全体会、第1、第2分科会)
　　立命館アジア太平洋大学(第3分科会)　J:COMホルトホール大分(第3分科会)
　　iichikoグランシアタ(第5分科会)
主催　　一般社団法人　全国高等学校PTA連合会
主管　　大分県高等学校PTA連合会
参加者　増田教頭先生、岡、早川、柏木、有村

大分大会　スローガン　♨湯ごころ　真ごころ　親ごころ
～輝く未来を切り開け～

別府、湯布院などの全国有数の温泉地を有する大分県。今年度はその大分県に、全国のPTA連合会員が一堂に会しました。
子どもたちの未来のために、親としてPTAとしてできることを考え、子どもたちを取り巻く環境について学び、考えるという大変学びの深い有意義な時間となりました。

一日目　8月20日　木曜日 【分科会】

◆第1分科会　PTA活動と教育について　　テーマ　PTAの役割と未来
◆第2分科会　進路指導について　　テーマ　大学入試と非認知能力
◆第3分科会　国際教育について　　テーマ　ダイバーシティの力
◆第4分科会　防災教育について　　テーマ　災害から護る力
◆第5分科会　生徒指導・教育相談について　　テーマ　不登校は心のメンテナンス

いずれも非常に興味深い内容でしたが、本校からは1，2，4の分科会へ参加しました。

【第1分科会】
◎講師　大分大学高等教育開発センター　岡田　正彦教授
◎演題　高校PTAは誰のために何に取り組むべきか
PTAは近年、加入意思確認問題や保護者の多忙化などを受け、会員数が減少するなど、PTAを取り巻く環境が厳しいことを実例を交えてお話をいただいた後、『高校のPTAは誰のために何に取り組むの？』というテーマでグループディスカッションを行いました。
◎所感　テーマについての講演を聞き、PTAの置かれている状況の厳しさを改めて感じました。グループディスカッションでは会場全体で熱心に意見が交わされ、各学校がそれぞれ課題を持ちながらも活動されている様子が発表され、刺激を受けました。

【第2分科会】
◎講師　河合塾東日本営業部　塚本　裕司部長　河合塾学校事業推進部　山口　大輔部長
◎演題　変化の激しい時代にどう対応するか
前半は年々変わる大学入試の状況と概要について、生徒と保護者が理解しておくべきことは何か、後半は高校卒業後に社会に出たときに必要とされる力とは何か、というお話を伺いました。
◎所感　親世代の時とは全く違っている大学受験。また、進学にしても就職にしても、時代の変化とともに選択肢が広がり、親にはわからないことも増えています。進路選択には、家族間での意見の擦り合わせや情報収集がとても大事な事がよく分かりました。

【第4分科会】
◎講師　大分大学　減災・復興デザイン教育研究センター長　鶴成　悦久教授
◎演題　過去の災害から学び未来へとつなぐ防災教育
　災いを無くすのではなく被害を抑える「減災」をテーマに、大分県での高校生防災リーダー育成やフィールドツアーなどの実践事例が紹介されました。
◎所感　「学校で防災の授業をやっていますか？」という鶴成教授の問いかけが印象的でした。高校生の取り組みに頼もしさを感じる一方、教員の異動による風化などの課題も学びました。非常時だけでなく、普段の生活から地域全体で防災意識を繋いでいく大切さを実感しました。

二日目　8月21日　金曜日 【全体会】

◆アトラクション　大分県立由布高等学校　郷土芸能部
◆開会式、表彰式、閉会式
◆記念講演
◎講師　内川　聖一氏　元プロ野球選手、野球解説者
◎演題 「夢が導くあきらめない気持ち」
　大分県立大分工業高校からドラフト1位で横浜ベイスターズへ入団、その後、福岡ソフトバンクホークス、東京ヤクルトスワローズで活躍。数々のタイトルを獲得し、WBC日本代表にも選出されるなど、日本プロ野球界屈指のスタープレイヤーとして活躍されました。
　元々、高校卒業後ではなく大学卒業後にプロ入りを目指していましたが、高校野球で甲子園に出場できなかったことや、高校野球の指導者である父親の言葉が後押しとなりプロ入りを決意したとのことです。
　子どもの頃から、夢を叶えるために逆算して行動し、どうすればプロ野球選手になれるかを考え、日頃言われていることを必ず行うことを大切にしてきたそうです。
　また解説者となった現在では、選手時代とは異なる視点を持ち、表現するためには何が必要か、アンテナを広げていると話されました。
◎所感　大分県のみならず、日本野球界のスーパースターの登壇に会場は大盛り上がりでした。日本シリーズのMVPや日本代表など、数々の偉業を成し遂げた内川氏ですが、講演のなかで内川氏はまだまだ道半ば、発展途中であると語っていたことが非常に印象的でした。講演後の質疑応答でも質問希望者の挙手が絶えることはありませんでした。

【最後に】
　様々な内容のプログラムが充実した2日間でした。そして大会スローガン通り、大分県の方々の温かさを感じることができる大会でした。暑い中、誘導や設営などの大会運営にご尽力くださった大分県の方々に改めて感謝申し上げます。
　来年度は東京大会で令和9年8月19日(木)・20(金)に開催されます。　　(文責　本部)